

(2016年1月24日投票)

八王子市長選 五十嵐仁さん応援演説原稿)

私は神奈川県海老名市に住み、82歳つまり天皇と同年の老人です。戦後生まれの五十嵐仁さんとは世代は異なるわけですが、同学の友人として今夕ただいまこの論壇にたっております。五十嵐さんは政治学者、私は経済学者で、専門はやや違いますが、戦後日本の労働社会政治に強い関心を持って研究を続け社会的発言を行ってきた点では共通です。老人のはっきりしない記憶で恐縮ですが、最初に五十嵐さんを個人的に認識したのは、彼の属する法政大学大原社会問題研究所が1995年に『新版社会労働運動大年表』を刊行した折からです。私はこの明治維新から現代に至る大年表が取り上げた年表項目の最初と最後についての批判を書いて研究所に送りました。それに対して、五十嵐さんの個人名が署名してある返事の葉書が来ました。それ以来、彼のことを個人的に意識するようになりました。私が出関市大学長職を終えて、神奈川県海老名の地で九条の会など草の根社会政治運動の老後生活を送る傍ら、後輩の中堅若手研究者の要望支援で初め約十年行ってきた「関東社会労働問題研究会」という名の私のゼミナールにも、彼が近年、加わって、交流の密度は一段と高まった関係です。

その彼が、こんど彼の「第二の故郷」八王子市の市長選に挑戦勝利し、それによって安倍暴走政治にストップをかけたいとして立候補を決意しました。書齋にこもりつきりではなくて、政治的实践に係ることで自己の科学的認識を広め深めようとしている研究者は珍しくはありませんが、しかし政治選挙に打って出るとの決意をする研究者はやはり数少ないです。五十嵐さんの立候補決意に深い敬意を表し、その決意が勝利の結果を迎えることを強く期待いたします。

彼がネットで発信しているブログ「五十嵐仁の転成仁語」で12月23日に行った街頭演説の原稿が掲載されています。そこに三つの訴えがあります。第一は、市民の命と暮らしを守る、第二は、福祉と緑のまちづくり、第三は、住民及び市職員との対話共同による自治の実現です。すべて大賛成です。

私は、ここでは第一の訴えに関わって、若干の発言をいたします。

アベの嫌う戦後レジームつまり日本国憲法に体现されている戦後民主主義の

重要な要因にあるのが地方自治です。住民の自治に拠る地方自治体は国から独立した国類似の統治機構であり、国民主権を実質化するうえで重要な位置を占めています。地方自治法第二条に二十二項目例示されている地方自治体の公共事務の筆頭に挙げられているのは「住民及び滞在者の安全、健康及び福祉を保持すること」です。中央のアベ政治が小選挙区制という民意を離れ国民主権を形骸化する制度の上で、戦争法の強行、原発再稼働推進、消費税増税・社会保障削減・軍事装備強化を行っているのは、この「住民及び滞在者の安全、健康及び福祉」の保持に反することです。地方自治は、その権限をフルに動員して、この中央政治を制限制御せねばならず、自治体首長はそれにふさわしい人物を選ばねばなりません。憲法違反の戦争法は国政の問題でありかつ地方自治の問題です。横須賀港に駐留する原子力空母ロナルドレーガンには原発が4基搭載されており、その退去を求めるのも国政の問題でありかつ地方自治の問題です。五十嵐市長を実現して、「安全、健康、福祉」を地方自治の方向から、保持し充実させ、国民主権の現実化を図りましょう！ 戦後レジームを文章化したともいえる日本国憲法の三原則＝国民主権、基本的人権、戦争戦力放棄のうち、国民主権、基本的人権擁護は、近代国家がふつうに装備しているものです。自民党の改憲草案は、そこまで覆そうとするとんでもない極右的構想です。しかし、九条の戦争戦力放棄は、いわば世界史の先端に行く規定です。この日本でも、戦国時代は殺し合いで社会の統治のあり方を決めるのがルールでした。徳川3代将軍のもとでの島原の乱、明治維新の際の西南戦争がありましたが、まあ内乱の無い時代が数百年続いたわけです。

現在の中近東、アフリカでは、未だ殺し合いで社会のルールを決める時代にあります。しかし、国内のルールを決める近代国家の普通の姿は、選挙であり殺し合いの戦争ではないというものです。しかし、国際的關係では未だ未だ殺し合いの戦争による事の決着を図ることが行われている人類史の段階です。日本国憲法9条は、その人類史の段階を一段とたかめる人類史未踏の世界を切り開こうとするものです。今の憲法破壊憲法無視のアベ政治のもとで、護憲活憲の立場に立つわれわれの困難は、そういう性質のものと私は理解しています。

人類史未踏の世界を切り開こうとする日本国憲法九条は、自国民3百万余、他国民2千万余の生命喪失に象徴される甚大な第二次大戦を惹起した日本軍国主義に対する日本国民の深い反省の上にあります。ところが、いまの中央政府権力の座にある連中は、その歴史的反省を「自虐」として論難するヤスクニ派の人々です。ヨーロッパでも、アウシュビッツは無かったあるいはたいしたことではなかったという勢力があります。彼らは極右とよばれ、その思想は偏ったものとされます。右翼つまり保守、左翼つまり革新は、いずれも市民の選択する思想で片寄ったものではありません。両者共通の認識は、第二次大戦の枢

軸国の側、つまりイタリア＝ファシズム、ドイツ＝ナチズム、日本＝天皇制軍国主義が、犯罪的に誤っていたとの立場であり、ポツダム宣言を受諾して敗戦から戦後に至った日本もその立場を選択したはずなのです。その立場を南京虐殺は無かったとかたいしたことではなかったなどとして修正し否定する現在の自民党は極右勢力に純化した政治勢力です。

こんかいの八王子市長選挙は、地方自治の本来のあり方を通じて、中央の極右政治を制止阻止し、住民の「安全、健康、福祉」を図る重大な意義を担うものとなりました。五十嵐さん勝利のために、皆さん、がんばりましょう！！
下山房雄

(2016年1月8日・八王子いちょうホール10分のスピーチと当初依頼されて作った原稿。当日現地で3分枠と告げられゴチ部分相当の内容で喋って終了)